公民館報 まつもと

発行
2022
11/30

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

第50回神林ふれあい文化祭

防災体制にデジタル活用

災害時には迅速かつ正確な情報を求められます。里山辺の北小松町会は非常時に備え、情報通信技術の活用を始めています。

安否確認の課題

松本市里山辺地区の北小松町会は、703世帯1596人が暮らす比較的大きな町会です。

町会にも、いざという時のための防災組織があり、やはり課題のひとつは有事のときの安否確認。8～20軒で構成される隣組は54班ありますが、有事のときに対面での安否確認は膨大な時間が掛かります。また在宅せず外出などしていた場合には、対面での安否確認は出来ません。

委員会の立ち上げ

町会では防災体制の課題を解決するため検討を続けた結果、保護司・消防士などから情報通信技術の活用のアイディアが出されました。

松本大学防災研究所や、シルバー人材センターのシニアパソコン教室とも連携して、災害から命を守る隣組単位のきめ細かな防災システムづくりを計画しました。

令和4年度には、デジタル技術を活用して隣組単位のきめ細かな防災システムづくりのために、防災士や防災部長、デジタル化委員などで成る、北小松防災力向上委員会を立ち上げました。

北小松町会ホームページ　動画が流れます

始まった運用

委員会では3年計画の初年度にあたる今年、まず隣組班長単位で、災害時の安否確認用のLINEの運用を始めました。

ホームページを開設し、平時には町会に関する連絡事項を掲示し、災害時には気象・河川・県の防災情報などが取得出来る体制を作りました。公民館にはWi-Fiを設置しました。

また情報通信技術を使用する環境に無い方などの連絡漏れを防ぐため、当面町会の連絡などは今まで通りの紙ベースと、情報通信技術を使える方のLINEやホームページとの、二本立てで行うこととしました。

分かりやすいスマホ画面

町会の目指すところ

情報通信技術になじんで端末の取り扱いを可能にするため、定期的なスマホ教室なども開催していますが「委員会を組織したそもそもの目的は、情報通信技術を使うことではなく、災害時に一人の犠牲者も出さないことが、もっとも大切なことです」とは、北小松防災力向上委員会の丸山委員長をはじめ全役員の皆さんの思いです。

電話でお金はすべてサギ　だまされないで！

緊急事態です

皆さんは公民館入口にあるピンクの看板にお気づきでしょうか？お住まいの地区で実際にあった、詐欺電話の内容が書かれています。「保険料の過払い金を還付します」「年金を返します」など、公的機関を名乗る手口が多いそうです。

特殊詐欺の手口の9割は電話によるもので、特に70歳以上の女性が被害に遭う例が後を絶ちません。

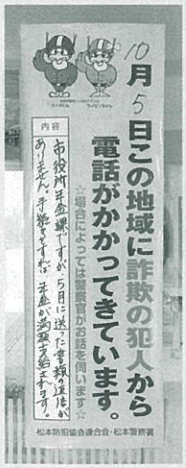
松本警察署生活安全第一課、米山警部補によれば「管内でも9月30日現在で20件・被害額は5581万円と昨年に比べ急増しています」とのことです。

騙されないで

深刻な事態に警察と行政が連携して手を打っています。

松本警察署では、前出の具体的な詐欺内容を地域づくりセンター入口に掲示するほか、「詐欺の詳細を知らせる出前講座」「蟻ヶ崎高校書道部に依頼し、啓発文の掲示」などを実施しています。

しかしながら、被害を低減するには至っていないのが現実です。



公民館の掲示　都度書き換えています

被害に遭わない工夫

急増している被害は、最終的には私たちが自分自身で防ぐことが必要です。いざとなったら冷静さを取り戻すのは大変なことですが、留守番電話の使用が導入しやすく、効果があるそうです。

他にも電話を一旦切り、正規の連絡先に確認し直す。

飼い犬の名前などで合言葉を決め確認する。

特殊詐欺の出前講座を利用する、などが挙げられます。

心の隙に付け込む特殊詐欺、お互いの注意で被害を防ぎたいものです。

グッズも活用しよう

館報はた

スージーちゃん　スイカワくん

令和4年11月1日現在

世帯数	6,332戸
人口	15,446人
男	7,515人
女	7,931人

鷺沢風穴か!? 石積み発見!

私は安曇稲核地区の出身で、5年前に波田に転居してから波田の風穴のことが気になっていました。これまでも梓川筋の風穴調査を実施してきた一環として、鷺沢風穴の場所を突き止めたいという気持ちが強くありました。波田町史にもその所在地についての記載はなく、鷺沢周辺を歩いても判明しませんでした。

そこで、2年前から「幻の鷺沢風穴探査」を開始しました。所有者は、明治38年発行の「長野県風穴調」（長野県に登録された正式の蚕種貯蔵風穴一覧）に記載されているので、波田地区内での聞き取りから開始しました。多くの皆さんに情報を頂きましたが、約120年前のことについては、なかなか核心に触れる結果は得られませんでした。

そんな中、令和4年7月に安曇・大野川地区の歴史愛好家の福島さんから、「島立・沙田神社の奥社の調査のために鷺沢に登るよ」との話を聞き、「もし途中で風穴らしき石積みを見たら連絡をください」とのお願いをしました。その後当日の夕方、福島さんから「風穴見つけたよ!」と、うれしい電話を頂きました。

そして、8月5日に当地を訪れました。鷺沢の中腹に位置するその場所は、風穴霧が漂って、木立に囲まれた周囲の景観とマッチした別天地の雰囲気に感じられ、しばらく立ち尽くしていました。

石積みの規模（横5・5m×奥行6・5m）、形状などを確認し、外気温18・5度、地中温度は13・7度などのデータが計測されました。一部、崩落が進行しているものの、この地が蚕種貯蔵に使用した風穴と思われるものであると推測されました。

今後については、何らかの形で後世に残る形に出来ればよいと考えています。

（稲核風穴保存会会長：有馬　正敏）

歴史を感じる石積み.

北原団地 分譲の頃の思い出

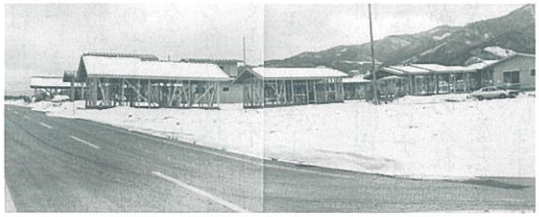
先日、書棚を整理していると、数冊のアルバムが出てきました。その内の一冊が、北原団地分譲開始の頃に現地で撮った写真を集録した50年近く前のアルバムです。当時私の勤務先は、東京に本店がある松本支店でした。住居は、城山公園のふもとにある家族寮（社宅）です。各県に支店があり、転勤の多い会社でした。さらにその頃から目立ち始めたのは、単身赴任者の増加でした。私も10年後には単身赴任をすることは確実だと思い始めました。「これからその対応策を考えなければ…」と、手をこまねいている期間が半年を過ぎた昭和51年（1976年）3月のことです。長野県企業局の新聞広告で「波田北原団地の宅地分譲」を知ったのです。妻の実家が波田の三溝で、頻繁に出掛けてはお世話になっていたので、下島駅と妻の実家の周囲にまとまる一族の家屋敷風景だけが私のもっている波田町に関する知識の全てだったのです。

分譲を知った次の日曜日、松本駅から上高地線に乗り、波田駅で下車。徒歩で着いた団地の広大な面積、団地内の道路幅も広く総じて好印象でした。雨の日も同じルートを往復しましたが、印象は変わりませんでした。

また、別の日には、波田町役場を中心に立地する小学校、中学校、図書館、運動施設、商工会館等が団地から徒歩10分程度の距離にあり、満足しました。

分譲を受けたい区画も決まったので、必要書類を整えている時、この団地で本当によいのかという疑念がわいてきたのです。翌日役場へ行き、団地について問い合わせすると、職員の方から「波田病院をご覧になりましたか?」と聞かれたのです。医療施設も近くにあるのかとわかった瞬間、私の気持ちは分譲を受け入れる決意に戻りました。

「思い出」は、書棚整理というきっかけによって、過去の記憶を呼び戻してくれました。懐かしさを感じながら、これからもこの住み慣れた地域で生活していきたいと思っています。



住宅が建ちだした当時の北原団地（写真は昭和52年頃）

三神社祭典と風祭り

今年の三神社祭典は、9月18日を宵祭り、19日が本祭りとして開催されました。

コロナ禍のため、今年も氏子総代による神事のみの祭典となりました。露天もなく、浦安の舞いも事前練習が困難のため中止を余儀なくされ、寂しい祭典となってしまいました。そんな中で、恒例だったお祭り青年団によるイベントは境内で行われなかったものの、寄付を集めていただいて10分程度の打ち上げ花火を計画してくれたので、悪いムードを吹き飛ばしてくれたような気持になりました。

今年は、祭典の準備をする町会当番だったこともあり、氏子総代の指導の下、神社のしめ縄を編んで新調したこともあり、町会が一丸となって祭典を開催できたと感じました。

また、秋の祭典を迎える前の行事として、風祭りという祭事も開催しています。波田地区の中では、いくつかの町会でこの祭事が行われていると聞いています。22区町会では、8月21日に開催され、氏子総代をはじめ、農家組合員、町会役員、公民館役員の総勢11人が参加して、公民館南側の外壁に祀ってある祭壇の前で祈願しました。

風祭りという祭事は、立春から二百十日経った時期に、台風等の風水害が多いとされていて、その影響を受けて農作物に被害が及ばない様に、風害防除を目的として祈願する祭事と言われています。

一般的に秋祭りは、農作物の収穫に感謝し、奉納することで神様をもてなす意味があり、その前に風祭りで被害を防ぐ祈願をするといった伝統行事がこれからも町会で受け継がれていくことを願っています。

大正モダン建築 旧波田町役場庁舎

市役所波田支所に初めて出かけた数年前、用事を済ませ、駐車場で走り寄って見上げた「第五区公民分館」の表札の建物にロマンを感じ、ずっと興味をもっていました。

ロマンに満ちた旧波田町役場庁舎

正面に三角屋根と尖塔、バルコニーがあり、木枠のガラス窓が美しく並ぶ旧波田町役場庁舎です。

大正14年（1925年）に建てられ、今年97歳の大正モダン建築。県内でも例のないL字型平面の木造2階建て、角が正面にあるので高く大きく見えて奥行のある佇まいです。今回、きしむドアを開けて2階に上がり、床の強度に少し不安を感じながら見学させていただきました。広々とした旧議会場には、縄文土器や民俗資料、生活道具、農耕器具などが時代を超え保管されていました。

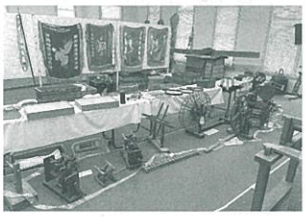
充実していたのは養蚕にかかわる道具です。波田の大地が桑畑だった大正期から戦前まで農家の主力は養蚕で、桑切り機、糸取り車、繭とり車、糸より車、機織り機など活躍していた当時が想像できます。

今でも毎年、波田小学校3年生が一クラスずつ見学に訪れ、昔の暮らしを興味深く学び、見学しております。

歴史に詳しい方々の話や過去の新聞記事、講演会記録を読み、今この場所に現存していることに感動しています。二度の移築に耐え、歴史愛好会やまちづくり協議会、公民館、有志の方々が保存を模索してきたことを知りました。

今後、耐震強度を備え、魅力的な文化財施設として、他の展示物も時代ごと一堂に会し、波田村、波田町時代の多くの人々の記録を留め、広く波田地域の歴史を学ぶ拠点になる事を期待したいです。

そして、個性的でレトロな大正モダン建築が波田の名所となって、だれもが立ち寄りたくなる身近な施設としての活用を、若い人たちをはじめ関心が高まることをわくわくしながら思い描いています。



まるっぱ

皆さんは、障がい者卓球をご存じですか。

視覚障害者を中心として、音声パソコンの指導者と朗読ボランティア数名で、月一度保健センターで行っています。この卓球は、スルーネットピンポンといって、ルール的には優しいです。（アイマスクを付けなくても良い等）

一般的な卓球とはだいぶ違い、1枚板状のテーブルで双方のエンドラインとサイド（60㎝）にフレームという枠を取り付け、ある程度までボールの落下を防ぎ、また、このフレームで囲まれた競技者側のエリアで主にプレーを行うようにもしています。ネットをテーブルから上に42㎜離して張ります。ボールは常に転がし、ネットの下を通します。卓球の玉の中に金属粒が入ったボールを用い、そのボールがテーブル上を転がることで、出る音を頼りに打ち合う競技です。ラリーが続くと運動不足解消にもなり、とても楽しい競技です。

月に1回、2時間程プレーを楽しんでおり、コロナ禍ではありますが会員のふれあい、近況等を話し合うなど、とてもいい機会となっています。

視点

⑨音楽を楽しみ 仲間と奏でるメロディ ミュージックトイズ

中高生ジャズバンド

ミュージックトイズは、中学生と高校生によるジャズバンドです。Mウイングを拠点に活動しています。松本市内外の学校から集まったメンバーは、小5から中2まで下級生が所属する「キッズ×キッズ」を合わせて、約50人に上ります。現在は、地区のイベントへの出演やクリスマスコンサートに向けて、週1回程度のペースで練習を行っています。

音楽を楽しむ経験

2005年に後藤浩輔さんがミュージックトイズを立ち上げました。当時楽器店に勤めていた後藤さんは、高校進学に合わせて音楽をやめてしまう生徒が多いことに、何とかしたいと考えていました。

練習風景、後藤さんの熱い指導

楽しむ経験を通して、音楽が続けられるように、少人数で自由に演奏できるジャズを取り入れ、良いところは褒めて悪いところは一緒に考えるなど指導法を工夫しました。

これまでに県内外のイベントや全国ジャスフェスティバルで演奏を披露しました。

仲間とつくる音色

後藤さんはミュージックトイズを通して「みんなで助け合って取組む体験をしてほしい」と願います。メンバーの柳澤咲希さん（高2）は「学校や学年を越えて交流できることがミュージックトイズの魅力」と話し、練習からメンバーで楽譜を囲み、活発に意見が交わされます。

次の演奏の舞台は、12月25日にMウイングで開催されるクリスマスコンサートです。仲間とつくり上げる唯一無二の音色が、これからも多くの人に感動を与えます。

仲間と話し、一緒に演奏を完成させる

取材風景はこちらから♪

写真でつづる

まつもと今昔⑥⓪

～ 入山辺 柴宮神社前 軍馬記念碑 ～

（撮影：1952年）
写真提供：入山辺地区西桐原公民館

日露戦争以降、戦場に出た軍馬のために慰霊碑や紀念碑が各地に作られました。
碑には明治三十六年十二月と刻まれています。

（撮影：2022年10月29日）

木々も茂り遠くが見通せなくなりました。道路整備の際に土が入れられたことが、石碑の台座の高さからうかがえます。

おこひる

今年も実りの秋が訪れた。春に植えた稲が秋になりこがねの穂を垂らし刈る時を今か今かと待っている▼機械化が進む前は家族や親戚で稲刈りやはぜ掛けを行っていた。そんな農作業の合間に、お母さんたちが用意してくれたおこひるをみんなで土手に座って、何気ない会話を楽しみながら食べるのが楽しみであった。そして、英気を養って、また作業に取り掛かる。しかし、今は機械化が進み、稲刈りと同時にもみにして袋へ入れて保存してしまうことがほとんどである。おこひるを食べている間もないほどである▼お宮は秋祭りの真っ最中である。感染症が広がる前までは稚児たちは白拍子（しらびょうし）に合わせて舞を奉納する。境内の中には沢山の出店が並び子どもたちはどのお店にしようか友達と一緒に楽しそうに選んでいた。自宅ではお祝いをしようと親戚が集まり楽しく食事をしながら会話を楽しんでいた▼今は、感染症と共存しながら行動することが求められる。気兼ねなく行動ができる日が来ることを願っている。

歴史探訪

探ろう松本 31

一番新しい松本の地区　松原地区

生まれて30年ほど、祭りも行事も若々しい歴史です。人口2、966人、世帯数1、239世帯で7つの町会があります。

松原地区誕生の歴史

松本市の東南部に位置し、面積は45ヘクタールのコンパクトな地区です。「松原」の名は、松林に覆われた土地を切り開いたことに由来します。

昭和53年から土地の整備が始まり、62年には300世帯の住宅が建てられました。翌年の63年に寿地区の白川町会から分町し、松原町会が発足しました。そして平成15年に地区として独立しました。

一から始める町づくり

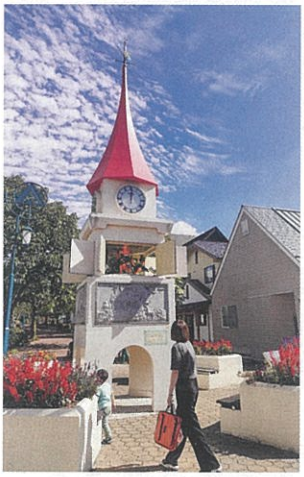
全ての住民が他の地区から移り住んでいるため、住人同士の絆をいかに作り、深めるかという課題に、当初から取り組んできました。例えば、住民の町会対抗運動会も、より参加しやすく、楽しめるようにと、少しずつ内容を変えて、現在は「ウルトラゲーム大会」となっています。

また、平成5年からは住民のふれあいを創造する場として「いいづら祭」を毎年7月に開催しています。住民が工夫を凝らした模擬店を出店し、食べ物や小物を販売します。中学生が準備や模擬店の販売、放送係の手伝いをしてくれるなど、老若男女が集う機会となりました。

模擬店を楽しむ「いいづら祭」

地元有志の輪

地区の中心に松原モールがあります。モールの中央部には「からくり仕掛けの時計台」が立ち、松原地区の宝として住民を見守っています。


秋晴れのからくり時計

平成10年、火災で時計台が焼けてしまいました。

当初、時計台を修復しようと「ミセス8（エイト）」と呼ばれる8人の女性たちが立ち上がり、一部は修理できましたが、まだ大きな費用が必要でした。

その後平成30年に、松原モールの再活用を通じて地区の活性化をはかる「松原モールぷろじぇくと」が立ち上げられました。また、それと歩調を合わせるように、単独で活性化や美化活動をしていた有志たちの連携が広がりました。

すると、その流れで時計台の修復の機運が自然と高まりました。有志の中には、電気や工芸の専門家もいて、結果、お金をかけずに時計台を直すことができました。

松原モールの再活用など、住民の交流や地域の活発化に不断の努力をしている松原地区のこれからが楽しみです。

松本平の野鳥たち

カケス　（2021.10 アルプス公園　写真提供：信州野鳥の会）

全長33㎝。腰の白色部や翼の一部に青色・白色の細かい縞（しま）部分が良く目立つ。ふわふわとゆっくり飛ぶ。松本平の里山では普通に見かける鳥。カラスの仲間で鳴声はジャーとしわがれた声。他の鳥の鳴き声などの物まねが上手。

表紙について　松本蟻ケ崎高校書道部パフォーマンス

第50回神林ふれあい文化祭が10月16日（日）神林公民館、福祉ひろば、体育館で開催されました。ステージ発表前のオープニングセレモニーで、音楽と踊りと書道が一体化したすばらしいパフォーマンスが披露されました。

（撮影　2022.10.16　神林体育館）